ETUORK

1983 since



クエール村の子供たちと(中央右上が大野一明氏)

次 CONTENTS



ミャンマーツアー ミャンマーツアーNov2006]

「TPA理事紹介 |9 第三の眼………2

とげずと云ふことなきなり	.3
■報告	
ミャンマー森復元プロジェクト	٠6
タイ地球市民奨学金だより	.8
協力隊帰国報告	1 ()

年目の訪問をしました。昨年は「親子で参加」をテーマ

ミャンマー2」を開催し、シャン州のクエルー村へ二

!昨年十一月に約一週間「地球隊ぎふ

は二泊三日での訪問でした。 協力事業としてはTPAG

今年は「まるごと一日体験しよう」をテーマに村に

マ「子供達の明るい未来の為」に則り、小学校の新

ませて頂いた時に忘れかけていた自分の地球市民として りました。前回のネットワークテラでヤンゴン事務所の く学ぶことができる。それを伝えきれない我々大人の な事でしょう。親の愛情を一身に受け、なんの犠牲も ました。それに比べてわが祖国の子供たちはなんと幸せ を済ませ、そして眠い目をこすりながら懸命に学んでい でとても親しみを感じましたが、みな朝早くからの托鉢 ガグリ頭のうしろ姿が私の三男剛希にそっくりでしたの 歳の子もいました。一番親の愛情が必要な時なのに。イ 為に親元を離れここにいます。 ました。ここの子供たちの多くは「学ぶ」為「生きる」 く日本を発ち、ヤンゴンの僧院 (孤児院) を訪問して来 の原点を思い出した気がしたからです。本隊より一日早 シュエさんが孤児院を紹介されていましたが、それを読 私個人としては、今回の旅は「原点」に戻る旅でもあ 我が子と同じ年の子や三

世界の平和と親善 地域社会の向上発展



の教えを信じ「目に見えないものを信じる心」を持って

ミャンマー で出会った子供たちは皆それぞれに仏法僧

ども達に最も大切な心であり、そして我々は大人として

ます。今この心こそ「我が愛する祖国ニッポン」の子

た旅でした。そんな原点を思い出させてくれたシュエさ

地球市民の会の皆さんに感謝いたします。

の尊さと同時に伝えなければならない「心」だと感じ

特定非営利活動法人

地球市民の会 TERRA PEOPLE ASSOCIATION

現在それぞれの立場を生かしてこのツァーでの体験を広

ました。今回の訪緬で参加者の皆さんが本当に感動し、 TPAが行っているプロジェクトの一端を見る事が出来

く伝える事の意味を理解し行動に移してくれている事が

とても嬉しく思っています。

短い時間ではありましたが大野PMのレクチャー を受け

ました。また研修事業としてタンボジの研修センターで

紹介や、僧院の前では皆で大鍋を使って餅料理などをし

ムスティの利点を生かし各々のスティ先で日本の食事の

校舎建設の資金面での協力を行い、

交流事業では、ホー

840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10

TEL 0952-24-3334 FAX 0952-24-7321 E-mail:office@tpa.nk-i.net ホームページ:http://tpa.nk-i.net

目に見えないものを信じる心

地球市民の会ぎふ



ノコンソーシアム 歓びの根源

必要なもの以上は、より必要としている

地球市民の会 会長 古 賀 武 夫

□── りを迎えようとしています。皆様、お元気でお過ご□── いを迎えようとしています。皆様、お元気でお過ご□── いもので、もう春三月、あっという間に年度の終わ

間です。をお届けします。いつまでもどこまでも、われわれは、仲をお届けします。いつまでもどこまでも、われわれは、仲こに行かれても、地球市民の会は、このネットワークテラまた、この時期は、進学、就職、異動の季節、地球上のど

道流空手道柔術拳法古賀道場」となりました。 九八〇)年三月に、佐賀日仏文化会館」「古賀英語道場・和(一九七六)年の佐賀フランス研究会に始まり、五十五(一ご存知のように、私たちの地球市民の会は、昭和五十一

てる会も、地球市民の会から生まれたものです。) に、佐賀EU協会や佐賀ユネスコ協会、佐賀県協力隊を育に、佐賀EU協会や佐賀ユネスコ協会、佐賀県協力隊を育に、佐賀EU協会」に発展的解消し、爾来、二十四年の歴史を経球市民の会」に発展的解消し、爾来、二十四年の歴史を経球市民の会」に発展的解消し、爾来、二十四年の歴史を経球市民の会」に発展的解消し、爾来、二十四年の歴史を経球市民の会」に発展的解消し、爾来、二十四年の歴史を経球市民の会、佐賀日仏文化会館、古賀英語道場・和道流空手でる会も、地球市民の会から生まれたものです。)

協力らでたいませれず下りをシニRもい思ってRられば、身を引き裂かれるような思いをした事もありました。は、身を引き裂かれるような思いをした事もありました。ことによって、いいことも沢山ありましたが、また一方で流空手道柔術拳法古賀道場」いう二つの団体を分離する身の心の中では、"地球市民の会」と、"古賀英語道場・和道身の心の中では、"地球市民の会」と、"古賀英語道場・和道身の心の中では、"地球市民の局、創立の張本人である私自ところで、この二十四年の間、創立の張本人である私自

で、入り口が違っているだけなのです。入り口でとまらいつでもそうであった様に、これらの団体の目的は同じいつでもそうであった様に、これらの団体の目的は同じいつでもそうであった様に、これらの守し、私の中ではる、英語道場に来る方は、英語を習いに来ると思って来られる。空手道場に来る方は、英語を習いに来ると思って来られる方は、または地域作りをしに来ると思って来らればりいます。

ず、奥までお入り頂きたいのです。

す。 人間の翼も夢の学校も、同じ目的で作った別の入り口

善、地域社会の向上発展』ということです。 その目的というのは、端的に言えば、『世界の平和と親

ます。きられる世界を作っていくよう、働かせていただいていきられる世界を作っていくよう、働かせていただいていえています。世界のみんなが笑顔で、幸せに、安心して生私達は、地球市民の会とは、世直し運動の団体だと考

のです。

のです。

のです。

のは、取ろうとする人たちよりずっと多いかも知れないとき方です。もしかすると私たちが回し、巡らしているもに回すことによってその方々に喜んで頂くのが私たちのといいも知れません。勿論、生きるのに必要なものは必要ですが、それ以上のものは、もっと必要とされる皆さんのは、いるいかも知れません。勿論、生きるのに必要なものは必要ですが、それ以上のものは、生きるのに必要なものは必要ですがら、地球市民の会に集まられる皆さん個人の、いですから、地球市民の会に集まられる皆さん個人の、い

できます。それは、目に見えない形で帰って来るかも知れてきます。それは、目に見えない形で帰って来るかも知れてきます。与えることによって、何倍ものお返しが帰っ「友の憂いに我は泣き、友の笑いに我は舞う」

いでしょうか。 来て良かった、とみんなで実感し感動できることではな過ぎないのではと思うのです。私たちの目的は、生まれてれらは果たして目的でしょうか。いや、私は、手段にしかお金や物は何のために得ようとするのでしょうか。そ

さんの団体と協力してさらに中身のある運動体となれるに、ゆるやかに再集合し、同時に、全国、そして世界のたく、そこで、同じ親から生まれた子供たちが、二十四年ぶり

ム』の結成なのです。 ようにということで、考え出したのが『テラコンソーシア

に生かされることとなります。 今年度から、少し時間をかけながら、テラコンソーシ 今年度から、少し時間をかけながら、テラコンソーシ 今年度から、少し時間をかけながら、テラコンソーシ 今年度から、少し時間をかけながら、テラコンソーシ 今年度から、少し時間をかけながら、テラコンソーシ

な渦を作って行くことになることでしょう。な渦を作って行くことになることでしょう。界へ大きな役割を果たす多くの若者たちを輩出する巨大集まり、私たちの持てるすべての力を生かして、次代の世指す「夢の学校」には、全国からたくさんの子どもたちがまた、全日制小学校、そして、幼保園、中学校の設立を目

考えています。活動をじっくりたくさん、急がず早くやって行きたいと活動をじっくりたくさん、急がず早くやって行きたいと合うことにより、まず、今年度は、さらに目からうろこの皆様のご理解とご尽力を得て、これらすべてが協力し

ズ第三弾を開催します!潔先生にも、佐賀にお越しいただき、夢の学校教育シリーモデル、沖縄の比嘉礼子さんやヒトの教育の会会長、井口モデル、沖縄の比嘉礼子さんやヒトの教育の会会長、井口四月七日には、そのヌチヌグスージのおばあの実在の



では、毎年のことない。 とにかく、毎年のことないら、今年は、更に大化けらいはみんなで顔を合わらいはみんなで顔を合わらいはみんなで顔を合わらいはみんなで顔を合わらいはみんなで顔を合わらいにかく、毎年のことな

(平成十九年四月四日

地球市民運動

人 社会 自然 の相互依存を十分認識し すべての **いのち** を慈しみ 強く 優しく 豊かに 美しく育てる

ミャンマー 随 想

云ふことなきなりとげずと

第11話 「ニンニク銀行」

ミャンマープロジェクトマネージャー 大野 博之

地球市民の会はニンニク銀行というプロジェクトをJA佐賀グループとともに実施をして2年目になる。 初年度から我々が意図したようにはなかなか進まず、妥協を重ねつつ初期目標に徐々に近づいていくしかなかった。 ところが2年目、事業実施をする私としても非常に嬉しいことが起こったのだった。

ニンニク銀行は、土地があるのに貧困で種が買えなくてニンニクを植えることができないという農民に対して種を村のコミティ(自治会)を通して貸し付けるという事業である。目的は3つ

ある。一つ目は貧困な村人の救済のためである。二つ目は村の開発基金を自分たちで作るためである。説明が必要だろう。コミティを通して実施するこの事業は、収穫後の種の返済はコミティに行うことになる。ニンニクは1キロから6~7キロ収穫が取れるので、1キロの貸付に対して2キロの返済を義務付けている。この利率はポオー地域の平均的なものであり、高い負担を求めるものではない。また、外部から種を借りた場合、返済分と利息は村の外部に出て行くことになるが、この銀行では村を改善していくための資金として内部で循環していくことになる。この銀行で借りることは村に貢献することにもなる。



JA支援サイトの村人と

返済率は、収量が悪い場合はコミティが村人と話し合い、我々が承認すれば柔軟に対応できるようにしており、貧困な農民に対する過度の負担を強い得ないようにしている。3つ目は循環型農業を広げていくということだ。この銀行でニンニクを借りた農民は地球市民の会が指定する農業技術で栽培しなければならない。そして、最も重要な目的だと考えているのが3つ目の循環型農業の伝播である。

ポオー族は95%が農業を行う民族だが、農業を学ぶ学校や施設がほとんどない。したがって、農業は伝統的な慣行農法と、説明もなしにたくさん取れるという触れ込みだけで広がった化学肥料と農薬による農法だけで実施されてきた。その為、農村では化学肥料の多投による収量の減少など、多くの問題が顕在するようになってきた。また、石油の高騰による影響で化学肥料も急騰し、貧困な農民では充分な量を購入することができなくなってきたのだ。このままだと、ポオー族の地域では農業による生活の維持が崩壊してしまう可能性も出てきた。それに対して我々は持続可能性の高い農業を実現させ地域が再生することの祈りをこめて循環型農業を普及させているのだ。つまりそれが、地球市民の会のミャンマー事業の目的であり、ニンニク銀行事業の意義でもある。

ところが、この循環型農業の伝播に最も苦労をしている。農業は、今までと違う地球市民の会の方法で実践してみて、上手くいかないからといって途中からやり直しができるものではない。そう易々と新しい方法に取り組むわけには行かないのである。ただ、その状態に手を拱いて見ているわけには行かないのでいろいろと取り組んだ。その結果、村の責任者にモデルとして協力してもらうのが一番早道ではないかと考え、今年ニンニク銀行を実施している村から責任者を対象にナウンカ村落開発センターに来てもらい、ニンニク栽培セミナーを2泊3日で実施した。その後その成果をハムシーナウ村で聞くことが出来た。

ハムシーナウ村のコミティメンバー、クンティンマウンの話である。今年、地球市民の会の研修を受けて、本当にその技術が必



JA支援サイトの村人と

要だということを理解して村の人に取り組んでもらうように薦めたのだが、興味を示す人が出てこなかった。それでは自分の畑でやって見るしかないと、昨年はあまり熱心に作らなかった堆肥もボカシも今年は多めに入れ、化学肥料も入れないでやってみた。すると、昨年よりもニンニクの茎の太さと葉の色に違いが出てきた。茎は太く、葉は濃い緑色になったのだった。畑が良いという噂を聞いて、村の人たちが見学にやってきた。「あなたの畑のニンニクはとてもいいですねえ。」と一様に驚いている。そして「どうしてそんなにあなたの畑はいいのですか」と尋ねてきた。クンティンマウンは「私があなたに教えて、あなたがやらなかったことを私がやっただけですよ」と答えた。村人は「あなたの言うことを聞いておけばよかった。私は損をしてしまった。来年はあなたの言うとおりになってみたい」と話した。

クンティンマウンがその話を終えたとき、私は何故そんなに頑張ってやろうと思ったのか訊いてみた。 すると、「村を良くしたいと思っていました。 地球市民の会

のお陰で村の為に働くことができそうです。 私は嬉しい。」と答えた。 嬉しいのは私のほうですよというと、「今年のモデルは私の畑だけですが、来年はもっともっとたくさんのモデルの畑を作って、村の農業を良くしていきたいと思う」と話した。 それを聞いたとき、私は JA 佐賀の皆さんにこの話しを伝えたいと強く思った。 そして「JA のサポートが一人の若者の心に火をつけましたよ。 皆さんの協力は資金を提供しただけではなく、お金では計り知れない希望をこの辺境の貧困な村の人々に提供したのですよ」と感謝の気持ちを添えてお話したいと思った。(了)

タイトルの「とげずと云ふことなきなり」は懐奘編「正法眼蔵随聞記」より拝借しました。

郎プロジェクト支 明るく楽しく、そ みの国ミャンマーで、 名の大所帯。微笑 含めると総勢十七 を得、スタッフを 援の方々のご参加 会員の方々、森太 ラリング東京支部の 長をはじめ、ミャン れてきました。古賀会 ンゴンと南シャン州タウ と切なさを感じる して人のやさしさ 高校建設)支援者の マー事業(ナムシー ロジェクトサイトを訪 ンジー県にあるTPAプ 一二日会の皆様、テ ミャンマー連邦・首都ヤ

一日程と主な訪問先

十一月二一日 十一月二十日 十一月一九日 十一月十八日 十一月十七日 十一月十六日 日本着 シェダゴンパコダ見学 ヤンゴン着 セレー森太郎寮 タンボジ研修センター 東京・佐賀発ヤンゴンへ インレー湖観光 ナウンカセンター 森太郎寮・ナムシー高校 ナウンシンデモファーム・ ハムシー寮

パコダの国 ミャンマー

坂井

邦夫

ラ

の訪問はミャンマーだけである。 多くの海外視察を体験したが、 ところにパコダが見られる。 国民は敬虔な仏教徒であり、 約一、八倍、人口は約半分である。 オス、タイに囲まれ、国土は日本の ミャンマーは、インド、中国、 いたる 私は、 四回

戦没者慰霊 一回目訪問 平成一三年二月

た激戦地であったと云われている。 派遣され、十九万の尊い命が失われ ビルマ戦線は、三十三万の兵士が



寒ささえ感じる気

の誠実な対応、子供 候でした。現地の人々 ウンジーは、比較 六日間でした。夕

的標高が高く、十

一月の夕暮れは、

の佐賀県関係の方々が赴かれた。 久留米師団の龍部隊と菊部隊と、 多く

手を合わせると共に、祖国を想い、尊 とを忘れてはいけない。 熱くなった。現在の平和な日本がある のは、英霊の方々の礎のもとにあるこ 向けた。鎮魂と哀悼の意を表し、胸が い命を捧げられた英霊の方々に香を手 し、私は、友人の父上様の戒名を唱え マンダレー ヒルでも追悼法要に参加

る方であった。ポオー族の高僧より、 折に礼拝している。 在我家の仏壇に安置し、毎朝の読教の 仏像を贈呈されたが、その仏像は、現 その温厚な人柄で、人々から敬愛され であるアバー ウアウンカムティ氏は、 する。 約百万人のポオー 族のリーダー 支援の調査のため、南シャン州を訪問 クトを進めるに当り、教育支援、農業 ミャンマー プロジェクト視察調査 二回目訪問 平成十四年十一月 地球市民の会、ミャンマープロジェ

三回目訪問 平成十六年三月 農業支援ツアー

計画されていることに敬意を表したい。 央会では、毎年ミャンマー 支援事業を する。 農民研修センター の運営、入植 豚銀行、ニンニク銀行等の農業を実践 に循環型農業を推進し、水牛銀行、養 の現地調査、「アジアとの共生」の下 デモファームの視察、その後、JA中 JA中央会役員の方々と南シャン州

し上げます。

ご支援に、心より感謝申 想を掲載させて頂きます。 いでした。参加者の感 を祈る気持ちでいっぱ での今後の事業発展 の幸せとミャンマー たたえた瞳に、彼ら たちの優しい笑みを

福岡資麿氏同行 (現衆議院議員 四回目訪問 今回の教育支援ツアー 平成十八年十一月

とともに再訪することを誓った。 私達 が立派に完成した後、一二日会の仲間 達は、学校建設資金不足を補い、校舎 胸が熱くなり、涙があふれて来た。 長、生徒、村あげての心からの歓迎に ナムシー高校を訪問。村長、村民、校 ンを視察。ナウンシンデモファーム、 める。坂井チキンヤードと坂井キッチ では、学生と夕食を共にし、親睦を深 井)四名参加。タンボジ研修センター | 二日会 (副島、古賀、野田、



ナウンシンデモファ

はイリノイ州のセーラーズ家であり、 感動を熱く語り合った。特に副島健一 はホテルに帰り、ミャンマーツアーの 青春時代に始まる。二十三歳の誕生日 メリカのホストファミリーで生活した 君の感激ぶりは一入であった。 私の国際交流は、昭和四十年に、ア

ていても、「勤労と感謝」を忘れては ヤン州であった。 のでなければならない。 はなく、家族や地域や国家のためのも ならない。それは、自分自身のためで ある。時代は変化しても国柄が異なっ く感謝する。 アメリカの人々も同様で 六十歳の誕生日は、 ミャンマーの南シ ミャンマーの人々は、よく働き、よ

ように思えてならない。 を自分自身にさえ忘れてしまっている 現代の日本人は、その「勤労と感謝」

えに失ったものが、そこにあることを れた時、日本が物質的豊かさと引き換 ミャンマーの人々の心の豊かさに触

12日会の方々、ナムシー高校にて

研修旅行に参加して

二日会 野田 和彦

バスの中で地球市民の会大野様より

マー 教育支援視察研修旅行に参加させ と地球市民の会とのご縁によるミャン 私高校同窓生の会 (一二日会)

一支援事業内容の説明を受け、視察先 の事等、また地球市民の会やミャンマ ミャンマー国、部族、村落、親と子供 毎日のように流れています。悲しい事 恵まれているかです。 日本では地域社 てみる事です。自分達日本人がいかに 我々は一度ミャンマー 国等の現状を見 きました。今、日本国で生活している 事は、日本と経済生活環境の違いに整 てもらい、有り難うございました。 会、家族、教育の問題等のニュースが まずミャンマー 国に入国して感じた



子供たちにお土産を渡す古賀会長

難うございました。頑張って下さい。 援応援したいと思います。 本当に有り 校舎竣工までの不足資金支援をお願い が竣工してない事、竣工まで資金不足 である事を再認識し感銘しました。 会と現地の人との信頼関係による事業 ナムシー 高校等を視察し、地球市民の であるタンボジセンター、 について私個人としても微力ながら支 しました。今後の地球市民の会の事業 に帰り、会のメンバー に現状を報告し との説明を聞き、視察した四人は日本 高校校舎増築事業を視察し、まだ校舎 さて我々一二日会が支援するナムシー

Study Tourに参加して

有澤 正典

ミャンマー国を訪問した。 スタディツアーに参加する機会を得る 地球市民の会が主催するミャンマー

可能性を探ることでした。 東京」として、プログラムに協働する 私なりに評価・確認し「地球市民の会 め、プロジェクトの意義、効果などを 各プロジェクトの状況をこの目で確か 予てより同国でTPAが実施している 私が、このツアーに参加した目的は、

化的制約が多い中で地域住民が必要と でおられました。政治的、経済的、文 ミャンマーでの事業は着々と実を結ん ツアーでありましたが、現地での活動 表情の農民や、村の教育コミユニティ 次第です。 デモファームの少し疲れた 賛同者を必要とするであろうと感じた な費用と期間を要し、少しでも多くの 動は、限りないテーマが存在し、多大 協働して解決をするという息の長い活 万象に通じる感性を必要とされるなか しての意識、彼等が目指すもの、森羅 かれた歴史、彼等の持つ文化、民族と たプログラムでしたが、少数民族の置 た。ポー族という少数民族を対象とし 進、何れも感心し、敬服するものでし 本部とのリレーションシップによる推 しているものを評価の上、住民と共同・ 短い期間で且つ限定された範囲での

> や満天の星空、東京に暮らす私達が何 びます。路傍の花や砂埃の道、青い空 時の間にかなくしたものが、そこには メンバーの顔、子供達の恥ずかしそう ありました。 一生懸命に発言する表情が浮

り易く手応えを得ることでしょう。 為には、具体的に取り組むプログラム すが、同志を募り、少しでも多くの人 すが、一方では愉しいこと、嬉しいこ を立ち上げ参加して貰う事が一番分か とでもあります。 ささやかではありま ね。それは、しんどいことでもありま るということ、関わると云うことです たちに知って貰おうと思います。 その 何かを知るということは、何かをす

二日会支援サイト ムシー準高校を視察して

和夫

ェクトを悉に視察することなのだが、 田・古賀) は中でも会の支援サイトで 我々一二日会の四人(坂井・副島・野 トラクト唯一の高校で、多数の学生が んでいる様々なミャンマー 支援プロジ あるナムシー準高校の視察に主眼した。 ナムシー 準高校はナムシー ビレッジ 今回のミャンマー スタディー ツアー 地球市民の会 (TPA) が取り組

後四時到着の予定が一時間半程も遅れ らの数箇所の視察に時間がかかり、午 シー準高校に着いたのだが、午前中か



建設中のナムシ

う状況である。 の支援で校舎増築が可能になったとい 建築が中断していたが、今回一二日会 始したものの、資金が不足し、校舎の いるため、村が借金して各種設備を開 定の設備を整えるよう圧力がかかって 担している。 一方で政府からは早く指 昇格できず、村が多大な教育費用を負 件に満たないため、政府公認の高校に いるにもかかわらず、政府規定の諸条

気候の差を感じさせて心地よかった。 て涼しい風が、蒸し暑いヤンゴンとの 乾期特有の強い日差しの割には乾燥し りで南シャン州のヘーホー 空港に到着 て一泊した。翌十七日、ヤンゴン空港 ツアーの一行十七名はヤンゴンに着い した。海抜千米ほどの高地特有の又 をプロペラ機で飛び発って約一時間余 平成十八年十一月十六日の夜、我々 翌十八日の夕方、我々は目指すナム

> 拶を述べた。 てしまい、日暮れに近い時刻になって の二階教室で歓迎会が開かれた。ドナ り視察し、写真を撮った後、既設校舎 会支援による建設途中の校舎をじっく いた。それでも学校関係の人達や村の を受けた。 坂井氏が代表してお礼の挨 人達が多数待ってくれていた。一二日 人は、ひな壇に座らされて熱烈な歓迎 (資金提供者)である我々の会の四

当地では、発電機は高価で貴重品であ り、燃料費も高い (日本の約八倍位 が、それでも天井・窓枠・ガラス・建 のでおいそれとは動かさないらしい。 所の多い、又、来ていても停電の多い 灯を点けてくれた。電気の来ていない 一二日会の支援でずいぶんはかどった は予算の都合で数年間を要している事 特別にディー ゼル発電機を動かして電 学校関係者の話によれば、校舎建設 途中で日が暮れて暗くなったので、



ほしいとの事だった。 ットは準備できるが、一二十万チャッ が、村の人たちはその内一三十万チャ チャットは約0・1円)が必要である 完成させるには二五十万チャット (一 具等が未完成であり、来年度それ等を トが不足しているので是非力を貸して

じられた。TPA現地責任者の大野氏 解出来るようになる事であり、その目 育観は「教育とはお釈迦様の教えを理 の話によれば、ミャンマーの人達の教 には支援しないとの事なので、ナムシ は地元住民のやる気・自立心が無い所 的は人の為に役立つ事」だそうである。 ・高校はその基準に適合していると感 地球市民の会 (TPA)の支援基準



森太郎寮にて

我々日本人がこの数十年で置き去りに ミャンマーの人達は物質的には貧しい はまだ充分に持ち合わせているので し忘れつつある「心の豊かさ」を彼ら 純朴・親切・思いやり・労い等々

物に恵まれている我々日本人に比べ、

平に直にローソクを立てている子がお り、目頭が熱くなった。 ともして見送ってくれた。中には手の には子供達がローソクを持って灯りを う真っ暗であった。 廊下・階段の要所 歓迎会が終わり教室の外に出るとも

と話し合った次第である。 | 二十万チャットを何とか工面したい 我々一二日会の四人は不足している

森太郎寮を訪問して

内田 裕子

と驚いたり「ホー」と感動したりした とはいえ、あまりにもの違いに「ヘー」 ないと思い、他の方のように人のため て頂きました。 考え方や価値観の違い 気が少ない異分子でしたが、参加させ に何かをしたいというボランテイアの ひーほー」の旅でした。 軍事政権のため、普段めったにいけ

分の小さい頃のことを思い出し、いい 「そんなに勉強したいの?」と、自

> した。 ました。そして、ありがとうございま りがたく思います。大変お世話になり 強できる幸せを再確認できたことをあ いま、放送大学に通っていますが、勉 加減に生きてきたことを反省しました。

ヤンゴン空港にて

宮嶋 寛治・美子



りる毎に新たな経験が立ち上がる。 とか。飛行機を下りる度に、バスを下 何という中身の濃い四日間だったこ 新たな温かい情にふれ、新たな世界

大きな事業が展開されようとしている そしてTPAの方針がかみ合って この人々の熱い意欲と地方自治の政 何かしたいという想い.....。

を視る。鋭い啓発と深い感動、そして

かし、成長の期待は大きい。 ことが、強く強く感じられた。 まだ、事業は種をまいたばかり。

も挑戦的な試みと感じました。 が、個人的には《デモファーム》 開をしているように見受けられました 事業の成功を心から祈ります。 ずいぶん広い地域に多方面に事業展 タウンジーの村々とTPAの発展と すばらしい体験をありがとう。

国後の十二月にご病気のために急逝さ た一二日会の副島健二様が、ツアー帰 今回のミャンマー ツアにご参加頂



福をおいのりいたします。 ておられたとのことです。謹んでご冥 マーの子供たちのことを本当に心配し お亡くなりになる直前まで、ミャン

夕小翼等金だより

今年も、タイ奨学金支援校の卒業式の

季節を迎えました

する気持ちを込めて、ひとつの実べての実を収穫せず、自然に感謝ります。果実のなった木からはす「木守り」.....という言葉があ

ける気持ちです。また小鳥たちにも実りの喜びを分を残すことです。自然に対して、

を話してくださいました。彼女た想いを形にしたいと、篤い気持ちおられるそうです。彼女たちは、おられるそうです。彼女たちは、おられるそうです。彼女たちは、おられるそうです。彼女たちは、か、突然、事務局を訪れて来られが、突然、事務局を訪れて来られが、突然、事務局を訪れて来られが、突然、事務局を訪れて来られ

さを、しっかりと受け止めてもらえられることによる心強さと温かったとになった子供たちに、支いのことだけど、日常の中の、お互い様の気持ちを大切にする。少しのことだけど、日常の中る。少しのことにする気持ちを大切にすることになった子供たちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、私はちの話を聞いているうちに、ものによるが受け止めてもら

を再確認させられました。忘れないこと。本来の支援の意味いる私たち日本人が、大切な心をうこと。そして、何より支援して

三好達治の詩をご紹介します。こう達治の詩をご紹介します。私が奨学金の事業にを要します。私が奨学金の事業にを要します。ということは長い年月を育てる、ということは長い年月を育てる、ということは長い年月を育てる、ということは長い年月を育てる、ということは長い年月を育てる、ということは長い年月を育てる、ということは長い年月を育てる、ということは長い年



残果

三好 達治

友らみな梢を謝して市にはこばれ売られしが

ひとりかしこに残りしを

木守りといふ

蒼天のふかきにありて 紅の色冴えわたり

肱張りて枯れし柿の木 痩龍に睛を点ず

木守りは木を守るなり

鴉のとりも鵯どりも尊みて ついばまずけり

みぞれ待ち雪のふる待ちかくて ほろぶる日をまつか

知らずただしは寒風に 今日を誇るか

TPA理事紹介 的自由自動的中国



副会長 多良 淳二

人生を変えた出会い

TPAとの出会いは平成の時代と共に歩んで19年目。わが古里の土が恋しくて、生まれ育った地に我が家を構えた途端に、ホームステイの受け入れを半ば強引に頼まれたのが切っ掛けです。最初は、断わろうとしたものの「韓国の女子大生」(かちがらす計画 と聞き、二つ返

事でOK。それから病みつきになって毎年受け入れて、今では15カ国30人以上となりました。

そこで止めときゃよかったものを、タイのスタディッアーにこれも強引に参加させられたのが、タイ病にかかってしまい。カルチャーショック。で半年ほど仕事が手に付かず大変なことになってしまいました。今までの人生の価値観が、ガラガラと音を立てて崩れ去って、立て直すのに10年以上かかってしまいました。

「自分を見つめ直し、自分らしく生き、私にも出来ることは何だろう?」と模索している時に、TPAと出会い、「自分が求めていたのはこれだったのだ」と気づかされたのです。それからは、生き方の価値観の機軸をちょっとずらして、「本物の人生を歩く、本当の幸せな生き方」の自分探しの旅の始まりでした。

国際交流、国際協力、里親となってタイ・ベトナム・スリランカを訪ね、外からの視点で足元を見つめ直し、地域づくり活動、職場では社会貢献活動に取り組み、気が付いたら本業以外が本業になってしまい今では、窓際を通り越してベランダ族となってしまいました。しかし、周りの人達とは全く違った楽しい、そして心豊かな本当の人生が送れたのではないかと自負しています。

その出会いの切っ掛けを作ってくれた、馬場氏や古賀会長はじめ多くの仲間達に感謝申し上げます。二度とない人生だから、一つでも多くの楽しい思い出を作っていきたいものです。



常任理事 植田 寛

定年退職した。眠っている時も、走っていなければ置いていかれる様な生活が、突然停止した。名刺の肩書き、身分、地位、所属、さらに自宅以外の連絡先も無くなった。当然ながら収入も激減した。過去の思い出を越えて、新品のシニアー人生に専念したく、仕事がらみの人間関係は疎遠とした。

定年を正面から引き受けることで、自分は何も変わらないのに、その存在感は恐ろしく軽くなり、自らの立ち位置も見えなくなった。 定年退職を「生きながらの葬式」にたとえる気持ちが理解できた。 この先の老いと伴にある人生、何をめざして生きていけばいいのか?

10数年前から仕事とは別に、「地球市民の会」の活動に関わってきた。なんのためにと考えると、単純におもしろかったのである。稼ぐための仕事とは、全く価値観が異なっていた。職場のように上下関係で命令もできず、会を動かすエンジンは、「欲」にかわって「感動」という次第であった。

タイの貧しい農村やスリランカの山中で、現地の人々と寝食を共にし、仕事を手伝わせていただいた間に、全く異なる世界を知るところとなった。

どう考えても貧しさの極みという子供から、「親と一緒にいて、ゴハンも食べられ、学校に行けるから幸福」、托鉢に応じたり、寺に寄進するよりは自分の身の回りを整える方が先だろうと思える人からは、「今日も徳が積めて幸せ」とも言われた。ミニ水力発電の開所式にご一緒した坊様からは、「なんでも持ってるお前の心は豊かか」と問われ、口ごもっていると、「真に豊かになりたいなら足ることを知らねばならぬ」と言われた。

「あれも欲しい、これも欲しい、もっと、もっと・・・の貪欲さが破滅のもとだ、欲のレベルを下げろ」と言われるのである。

こんななかで10数年間のそれとは知らず、定年後を受け入れて覚悟して生きていく先を修行させてもらっていたらしい。

一人で生きていけない我々には、手を携えていく「共生社会」が必要であり、ほど良い謙虚な生き様は、持続可能な社会の発展を約束してくれるはずである。「知足」、「共生き」、「循環型社会の構築」どうやらこれら3つがもたらすところ、「地球市民化」の世界の上に、これからの私の立ち位置があるらしい。



常任理事 山下 雄司

私にとって地球市民の会(以下、会とする。) とは・・・・・

「人もうけ」ができ、心が「帰れる処」です。

「人もうけ」

なんと言っても人生最大・最良(今のところ空前絶後?)のパートナー「奥様」との出会いを戴いたことです。きっかけは 年前、古賀会長

宅での正月パーティの席でした。

何百人(ちょっと大げさ?)出たリ入ったりの大賑わいの席で、初めて出会い、引力にひかれてのゴールでした。・・・・・こういった事例は会にはよくありまして、今後も恩恵にあずかる人がたくさん出てくるでしょう。・・・・・以上の事件を筆頭に、会に関わって以来「さがんもん」は勿論、日本各地、そして地球儀でしか知らなかった遠~い異国の人たちとも出会い、友達や兄弟、親子、夫婦みたいになりました。

「お金もうけ」はできませんが、お蔭様で「人もうけ」がたくさんできました。

「帰れる処」

娑婆に長年つかっていると自分の嫌な部分に出くわすこともあります。損得勘定が先にウロチョロし、心が、腹の中がだんだん黒色に変色しようともします。十代、二十代の若い頃の夢や志、粋な想いを忘れようとする時があります。・・・・・そんな時、会の仲間たちと共に語り、杯を酌み交わし、汗を流したりすると、グウッと「振り子が引き戻され損得ではなく、善悪のものさしが見えてきて正義の道理が感じれる」のは不思議なものです。

だから私にとって家庭と同じくらい安心して「帰れる処」なのです。 人の力は限りなし。

人それぞれが輝いている。

そんな輝いた人たちとの出会い。

「疲れたら、帰っておいで。」

「お帰りなさい、地球市民の会へ。」



常任理事 西村 一守

「いのちを与えられ、生かされている。」 いつからか、自然にこう考えるようになりました。 思い起こせば、「第1回小さな地球計画」浜玉宣言「人間は誰でん一緒!!」・・自分にも何か出来るような気持ちになり、吉野ヶ里遺跡跡内で「小さな地球計画」をやってみたいと考えるようになりました。

町の企画課・婦人会・商工会青年部、もちろんTPAのスタップ(この時、山下雄司・春美夫妻の誕生秘話有)等に助けられ、炎天下の中、実現へとこぎ着けました。

「世界日本語弁論祭」では、ソ連(現ロシア)・ポーランド・アジア各国の参加者で遺跡内の厳しい制限(電気が無いので電池式ハンディーマイク・椅子が置けないので新聞紙・等)の中、素晴らしい弁論がなされました。

この中の、タイの留学生の発表内容から、タイとの交流が始まったと記憶しています。

それ以来、毎年夏休みを利用して、TPAが主催するタイ訪問ツアーに三田川中学生を連れて行くようになりました。

その子達も、それぞれ立派な大人になり、地域の為に頑張ってくれています。 「カチガラス計画」・映画「人間の翼」・「零戦復元実行委員会」等々、様々な体験・感動を頂きました。

今ではこのような体験を生かして、自分の仕事にとり入れています。

常に、この地域で自分に何が出来るか?何をすれば良いのか?自問自答しながら日々、頑張っています。

地球市民の会に関わる様になって、沢山の人と知り合い、いろんな事を勉強させてもらい、感謝しております。

そして、今、こころ豊に過ごしているところです。

有難う御座います。

Republic of Botswana

ボツワナ~砂漠のカンバス⑤

「協力隊帰国報告~ヤギの味」

古賀悦子

ボツワナという国は、日本ではあま り名前が知られていませんが、私は青 年海外協力隊で任国を希望するとき、 ボツワナを第一希望にしていました。 ボツワナには、カラハリ砂漠に住む先 住民サン人の文化や、世界遺産に指定 されている古代壁画があること、ツワ ナ人は争いよりも対話や平和を尊ぶ民 族であるということなどを調べて、興 味を持っていたからです。また、成人 の4割がエイズに感染していること、 そのため平均寿命が約35歳であること、 ダイヤモンド産業により経済成長した ものの、貧富の差が激しいことなど、 国家がかかえる問題があることも知り ました。

ボツワナに赴任して、村の高校で美 桁教師として2年半の活動を終え、い は帰国して3ヶ月がたとうとしています。たくさんの困難や喜びを経験でいましたが、なかでも記憶に強く残っないましたが、なかでも記憶に強く生活のないで、自然と人との濃密なつながりないたり、ということです。牛で耕作を畜った、ロバで荷車をひいたり、その体にすると、50歳代以上の方の多くが、らいますと、50歳代以上の方の多くが、らいますと、50歳代以上の方の多くが、らいました。

ボツワナでは、村でお正月を祝うとき、親戚が牧場にあつまり、ヤギをさばいて食べ、一晩中、踊り明かします。 私は、その正月のお祝いに招いてもらいました。お兄さんが手際よくヤギをさばき、年下の子供たちはそれを手伝



ロバで水をくみにいく様子



ヤギ肉の塩茹で

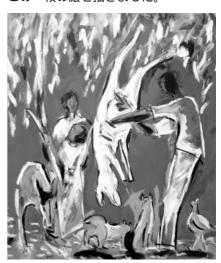
い、犬やネコ、ニワトリが、したたり落ちる内臓や血を飲みに来ます。それはとても自然な光景でした。その村の家には電気、水道、ガスが無かったので、ヤギ肉は薪で料理され、薪の燃えのこりと星明りをたよりに料理を記したが、内臓の塩茹での生々しさは、小々は烈でした。けれども、動物の内さるということは、本来そういうるということは、本来そうにないか、向を育みという行為のなかで、命や自然の重いという行為のなかで、命や自然の重いました。

そこでは、毎朝、子供たちがヤギの ミルクをしぼり、お姉さんがミルクティを作ってくれました。私は、あんな に美味しいミルクティを今まで飲んだ ことがありませんでした。目の前で絞ったミルクを飲むということが、感動 的だったせいもあるでしょう。

われています。ボツワナでは、村の道 端のあちこちに見かける鶏やヒこに見かけると、どこに見かけると、とこれが道端の草を食べながらゆったり草を食べながらゆったりません。あの堂コともありません。あいヒヨとがなくなって、私のの当ることがないことが、不自然なこととないないことが、不自然なこととがいないことが、不自然なことのは、帰国隊員特有の「逆カルチャーショック」なのでしょうか?

赴任当初、先輩隊員と一緒に食堂へ 入ったとき、チキンを頼んだけれども 食欲がなく、残してしまったことがあ ります。そのとき、「ボツワナの人が その食べ残しをみたら怒りますよ。彼 らは鶏肉は骨までかじるのだから」と、 先輩隊員からしかられました。なぜボ ツワナの人は鶏肉を骨までかじるのか、 それは鶏肉が牛肉より高級で高いから、 などといわれています。私はたぶん、 もったいないから大事に食べているの だろう、と思います。一匹のニワトリ の命を食べている、ということを、大 げさでなく、当たり前に受け止め、大 切に食べるムード、というものが、ボ ツワナにはあったような気がします。

私は、しぼりたてのヤギのミルクで作ったミルクティの味と、目の前でさばいたヤギの肉の塩茹での味を忘れないだろうと思います。そういう思いで、この一枚の絵を描きました。



ヤギ肉をさばいている様子

古賀悦子さんは、ボツワナから帰国後、佐賀市のギャラリーでボツワナの自然や暮らしをテーマにした絵画展などを開催。自らの活動と経験を絵画に託して表現しておられます。

平成18年11月から 平成19年1月までの集計です。

継続会員

ご継続ありがとうございます。

【正会員】

松林 佑典・白倉 和子 竜基・堀内 大石 久雄 麗紅 英樹・村田 濱田 田中 壽則・古賀 愛基 式守 佳男・谷口 優 大島 隆・松尾 哲吾 此芍 正則・中村 元 竹内 公二・久保 正敏 善徳 坂井

【維持会員】

村上 説男・古賀 武夫 古賀 洋子・久恒 力也 【団体会員】

みどりや茶舗

2006年地球市民奨学金 これからよろしくお願いします。

【タイクーキャオ中学校】 松尾 哲吾・志水 愛子

【タイクーキャオ高校】 坂井 学・林 礼 宮原 弘行・石井 義守

【タイポーゲウ高校】 水川真穂子・田中 嘉樹 伸子・平野 阻法 喜幸

隆・中尾 厚子 大島 八谷まち子

【スリランカシショダヤ奨学金】 唐沢 利夫

書損じはがき・古切手 他

いつもありがとうございます。 樋口ミドリ・森 郁代 磯部 芳子・麻生美矢子

佐藤さち子・小石原和男 日赤佐賀県支部

福岡 福麿・石塚 雅子 (株)佐賀リコー 力久

伊藤 節子・宮崎 照子

NHK佐賀放送局

佐賀市社会福祉協議会大和支所 徳島建設 徳島 政敏

(株)副島金物

(株)読売西武アイエス佐賀営業所 (株)クキナミ小売文具でぶんぐ 相宮 香織・円城寺久好

中溝 澄子

寄付金

ご寄付ありがとうございます。 【ミャンマー協力金】

三遊亭歌の介

地球市民の会ぎふ会長 森 幹冶

佐賀西ロータリー

久保薬局

福岡 資麿

ドンキー薬局

ニューポン新古賀

12日会 24会

古賀 和夫・坂井

野田 和彦

【ミャンマー指定寄付金】

< 森太郎寄付 >

牟田 純子

<ミャンマーナウンカ給水事業寄付>

鹿児島大学農学部

【文房具寄付】

キムラ文機

【テラリング】

伊藤 榮彦

「市民活動フォーラム」を行いました!!

第1部:大野PM報告会

「ミャンマーで見つけた『生かされる力』」

第2部:井口潔先生講話

「生きる力は感性だ!一生物学的人間観から」

■実施■日 時:2006年12月14日(木) 18:15~20:45

場 所:アイ・スクエア5階(大会議室)

2004年からミャンマーで活動中の大野博之プロジェクトマネー ジャーが、去る12月10日に一時帰国しました。そこで「市民活動フ ォーラム」と題して、現在九州大学名誉教授にして『ヒトの教育の会』 会長である井口先生をお迎えして二部構成で講演会を行いました! 大野はミャンマーの基礎からレア情報 当会のミャンマー事業等を 分かりやすく説明し、井口先生は感性を重視した教育論を熱く説い てくださいました。参加者は当会の理事・会員様の他、当会や国際 協力に関心のある一般の方、学生など幅広い層にお集まりいただ きました。 拝聴していただいた皆様、 ご寄付いただいた皆様にこの 場をお借りして御礼申し上げます。(寄付金はミャンマー事業資 金として活用させていただきます。)

また、講演会の後は「ええくらっ亭」にて懇親会を行い、ここでも活 発に意見が飛び交う素晴らしい交流の時間を設けることが出来ま した。今後も皆様のお気持ちに応えるべく、地域に根ざした活動を 行ってまいりたいと思います。



活動超生

冶 期 報 古	•
10/30(月)	佐賀県立総合看護学院学生ボランティア最終日
11/2(木)	国際協力フォーラム・事例発表
11/3(祝)	コミネット協会設立20周年記念フォーラムに参加
11/8 (水)	アジアガーデンワークショップ第3回
11/9(木)	日タイ修好120周年記念事業打合せ
11/14(火)~	ミャンマーツアー 会長・事務局出発
11/14(火)	活動紹介(佐賀県CSO推進機構より依頼)
11/16(木)~	ミャンマーツアー 一般参加者出発
11/21(火)	ミャンマーツアー帰国
11/25(土)	外語会
//	英語Deキャンプ 現地下見
11/26(日)	旧フランス研究会設立30周年祝賀会・記念式典・同窓会
11/27(月)	千代田中学校講演(会長)
11/28(火)	日夕イ修好120周年記念事業打合せ
//	佐賀市医師会立看護専門学校講義(会長)
//	第7回理事会・ミャンマー委員会
11/29(水)	ホルツマーケット見学
12/9(土)	パワーアップセミナー((財)佐賀県国際交流協会主催)
//	アジア国際フォーラム・シンポジウム
12/10(日)	大野プロジェクトマネージャー帰国
12/11(月)	JICA小淵伸司氏(業務第一チーム長)来局
12/13(水)	ミャンマー事業のドナー御尉さんと打合せ
12/14(木)	ミャンマースタッフ選考会
//	地球市民の会フォーラム

12/15(金)~

12/17(日)

12/18(月) 第8回ミャンマー委員会・理事会 地球市民の会 忘年会

// 12/20(水)

協力隊表敬訪問 佐賀税務署へ(消費税の件)

大野氏帰国歓迎会(21:30~)

大野PM現地報告·井口先生講話

//

12/23(±)大忘年会

12/24(日) 大野プロジェクトマネージャー 再渡緬 12/27(水) 仕事納め・大掃除

零戦展示

12/28(木)

ネットワークテラ発送

1/4(水)

仕事始め

1/5(金)

山口専務理事来局・スタッフミーティング

1/6(土)~ 自然学校リーダー研修

1/8(祝)

1/7(日) 地球市民の会京都設立記念新年会

1/8(祝)

ヒトの教育フォーラム

1/15(月)

1/10(7k)北九州JC新年会・北九州地球市民の会へ

第9回ミャンマー委員会・理事会 新年会 1/27(土)~ JAICAF林業専門家派遣

2/6(火)

2/12(月)~ 市民協働塾 英国視察ツアー

2/21(水)

2/26(月) 2/27(火)

第10回ミャンマー委員会・理事会 現地調整員・事務局スタッフ 選考会

3/1(木)

アジアガーデンワークショップ 3/9(金)・ テラリング全国大会IN釜山

英語deキャンプ

 $3/10(\pm)$

3/18(日)

第10回地球倫理推進賞受賞贈呈式

3/22(木) クーキャオウイッタヤ校 卒業式

3/26(月)~ 3/31(土)

活動予定

5/20(日) 地球市民の会・総会

地球市民ネットワーク

北海道地球市民の会

〒061-3214 北海道石狩市花川北 4 条2-197

会長/阿部功 事務局長/新保知博

TEL • FAX: 0133-74-1296

地球市民の会ふくしま

〒963-8681 福島県郡山市喜久田町卸1丁目120-1

(株)石黒

会長/事務局担当 石黒秀司

TEL: 024-959-6426 FAX: 024-959-6577

地球市民の会東京

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13

信州会ビル4F (株)ナチュラル内

会長/津川宏幹 事務局長/青木高広

TEL: 03-3662-0331 FAX: 03-3662-0400

E-mail: aoki@nun.co.jp 地球市民ACTかながわ

〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203

会長/近田真知子 事務局担当/伊吾田善行

TEL • FAX: 045-622-9661 E-mail: port@tpak.org

地球市民みえの会

〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターパレス3F

津市市民活動センター内

会長/伊藤洋之 事務局担当/秋葉幸信

TEL: 059-226-5700 FAX: 059-224-8911

E-Mail: miemiemie21@hotmail.com

地球市民の会ぎふ

〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1 竹花園内

会長/森幹治 事務局担当/平井八重子 TEL: 058-391-5415 FAX: 058-391-8600

愛媛地球市民の会

〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640

はばたき授産園内

会長/篠崎和夫 事務局担当/丹生谷宗久

TEL: 089-963-3772 FAX: 089-963-3795

地球市民の会福岡

〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4

(株)増屋内

会長/増田誠司 事務局担当/西村和寿

TEL: 092-801-5888 FAX: 092-801-5789

北九州地球市民の会

〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14

中央会館2F

会長 / 河野一郎 事務局担当 / 大山研児

TEL: 093-521-8181 FAX: 093-551-2296

神ノ戸有頂天倶楽部

代表者 / 松元隆司 事務局担当 / 大西陽治

地球市民の会京都

代表者/宮川尚子 事務局担当/西田一貴

ネットワーク・テラ 春号 VOL.126

行:特定非営利活動法人 地球市民の会 〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10

ホームページ: http://tpa.nk-i.net E-mail: office@tpa.nk-i.net

TEL: 0952-24-3334 FAX: 0952-24-7321

発 行 日:2007年4月6日 発 行 人: 古賀武夫

編 集 人:地球市民の会 事務局 刷:㈱サガプリンティング

会員の皆様へご案内

特定非営利活動法人 地球市民の会

第6回通常総会のお知らせ

平成19年5月20日(日)に開催致します。 平成17年度 事業報告、決算報告について 平成18年度 事業案、予算案について 詳細は、後日お知らせをさし上げます。

皆様のご参加を心よりお待ちいたしております。

第10回地球倫理推進賞 文部科学大臣奨励賞を 地球市民の会が受力

当会の国際的な環境保護や人道支援などの活動が評 価を受けました。

3月18日横浜市のパシフィコ横浜で贈呈式が行われ ました。

♪ こけてしぇ! □ 員はそのつまずきそうになったものを… □ 目境を越えて人々の笑顔との出会いを心待 □ ミャンマー、タイ、スリランカで、 □ ミャンマー、タイ、スリランカで、 □ これています。 なってくなっ 謝を申し上げま 事務局員にとって大きな励ましです。 して、会員 の人々がで の人々がで を自分たちなりに形にしてきたできる限りの力を業務に注ぎ、 とまり、大きな支援が、エ 去る から頂くご支援は、 なったものを乗り越え、ができ、私たち事務局しかし、国際支援とい前の業務につまずいて、の回るような忙しさで ŧ 後となっ 注ぎ、 務 まし Т *。 心よ! (でいま) (でいま) (でいま) で心待ちにを乗り越え、 局 事務 た。 Pの ます さ。A で事へ A 中 務 で

今号のひとこ

まだまだ家の中には置きません!!老後を迎えるまでは...(西 村)

怠惰の象徴。でも実は好き。(畑) 受験の時私の住処でした。(吉岡) 幸せの温もり!(-_-)zzz/ 冬眠?(納富) 日本人の心、和の心!(池田)



地球市民の会、及び地球市民運動は、特定のいかなる思想、宗教、政党とも、特別な関係は一切なく純粋に、世界中の人々のニコニコ生活を目指した運動を展開しております。